

# 平成23年度4月1日訓示

平成23年4月1日

礼文町長 小野 徹

みなさん、おはようございます。本日から平成23年度であります。まず、先程、永年にわたり公務員として勤務され、30年勤続の全国町村会自治功労表彰を受けられた川村主査、真におめでとうございます。今日まで、町発展のために尽くされた大変なご努力に対し心から敬意と感謝を表する次第でございます。引き続き、健康に十分留意されまして、町民皆さんの幸せのため、「元氣のでる礼文づくり」に、更なるお力添いを賜りますようお願い申し上げますところでございます。

また、新採用の皆さん、おめでとう。心からお祝いを申し上げますとともに、今日から私たちの新しい仲間となりましたことを歓迎したいと思います。皆さんは、昨今の大変厳しい経済雇用情勢の中で、自ら進んで公務員の道を選ばれたわけであります。どうぞ、今の気持ちを忘れないで、一日も早く仕事に慣れ、仕事を覚えて「町民みなさんの幸せのために頑張る役場職員」になってほしいと願っています。

地域の皆さんも、そのことを期待し、新採用の皆さんには、特に注目しているのでございます。

さて、いよいよ平成 23 年度、新年度が始まります。  
さきほど、辞令を交付させていただきましたが、今年も定年退職 1 名と早期退職者 1 名がありましたので、小幅ではありますが人事異動を行ないました。それぞれの部署、また、立場で町民の皆さんの幸せのために、一致団結して業務を遂行されるようお願いいたします。

特に、昨日も申し上げましたが、3月 11 日に発生した「東北関東大震災」の影響が懸念されるところであります。漁業にとっても、観光にとっても、また、町民みなさんの日々の暮らしの中にも、「じわりじわり」深刻な影響が出てくると思っています。必要と考えられることについては、積極果敢にチャレンジしていただきたい。そして、「元気な礼文づくり」にしっかりと対応されるようお願いいたします。

次は、新年度に向けた新たなお話をいたします。

わが町の歴史は 1685 年 今から 326 年前の貞享<sup>ていきょう</sup> 2 年に松前藩の領地であった「宗谷場所」の「礼文付属場所」として始まったと伝えられています。

その後、明治 13 年に香深村ができ、明治 25 年には船泊村  
ができました。香深に<sup>こちょうやくば</sup>戸長役場ができてから今年で 131  
年であります。

そして、昭和 31 年 <sup>いわゆる</sup>所謂「昭和の大合併」によって香深村  
船泊村が合併して「礼文村」となり、昭和 34 年の町制施行  
によって現在の「礼文町」になったのでございます。合併当  
時は、1 万人を超える人口がありましたが、昨年 10 月の国  
勢調査では 3,078 人となり、今年の 1 月末でとうとう  
3,000 人を割り込んで 2,992 人となりました。

ひとり人口が減るごとに、地域の活力がひとつまたひとつと  
<sup>うしな</sup>失われていきます。

したがって、これから町がやらなければならないことは、  
島に産業を作り、島の商品を売り、島に人を増やすことでは  
ないかと思うのでございます。特に、3,000 人を割り込ん  
だ今、私たちはそのことをもっともっと切実に<sup>とら</sup>捉えなければ  
ならないと思います。でも、それは口で言うほど、簡単では  
ないと思っています。しかし、礼文島は「北の海の幸」に恵  
まれ、また、素晴らしい自然があります。

これらの資源を活用して、水産業を活発にし、<sup>と</sup>獲るだけの水産から水産物に付加価値をつけることや商品化を進めて、島の商品売ることを考える。

さらに、水産と観光をつなげた地元での水産物の消費拡大とお土産品<sup>みやげひん</sup>や島の特産品の販売、それに島の自然とそこに住んでいる私たちのホスピタリティを中心に<sup>す</sup>据えたグリーンツーリズムやエコツーリズム、また、アイランドツーリズムや、いつも云うところの「癒<sup>いや</sup>しの島づくり」などなど、やれる素材はたくさんあると思います。私は、島に産業を作って、若者を増やす<sup>せさく</sup>施策を実行しようと思っています。

そして、そのためには、すでにいろいろな形で人口を増やす取組みを行なっている町がありますので、その町のことを学ぶことから始めたいと考えているところでございます。

人口 1,200 人。ゆずの加工品で 33 億円を売り上げ、年間 6 万人の観光客を集めるまでになった高知県の<sup>うまじむら</sup>馬路村。

人口 3,800 人の町で農産物や加工品の直売所とレストランを経営して年間 16 万人の人を集め、農業事業だけで 56 億円を売り上げている大分県<sup>ひ た し</sup>日田市<sup>おおやままち</sup>の大山町農協。

また、島根県<sup>おき</sup>隠岐の島の<sup>あまちょう</sup>海士町や道内でも<sup>あっさぶちょう</sup>厚沢部町などでは第三セクターを立ち上げています。

公務員ではなかなか動きがとれないことでも、例えば第三セクター<sup>いわゆる</sup>所謂「実行部隊」を作って仕事を進め、赤字を出さずに成功しているのであります。

第三セクターでもやり方次第では赤字にならずにやれると云うことではないかと思うのです。

あるいは、NPOを立ち上げて活用することも考えなければなりません。

いずれにしても、これらの地域に共通していることは、生産だけでなく、加工や販売、加工品の営業から宣伝までトータルなものづくりと地域全体に経済が循環するしくみを作っていることであり、地域の人たちが活躍する場を自ら作り上げていると云うことです。そして、そのことが若者にとって魅力的な暮らしと雇用の場になっているのであります。

その証拠に、これらの町では、UターンやIターンによって都会からの若者と地元の若者も住みつくなど、確実に人口が増加していると云うことでもあります。

<sup>あまちょう</sup>海士町では、3年間で78世帯145人の1ターンUターンを受け入れたそうです。もともと2500人の町に145人の人口増加は大きい数だと思います。産業がない。働く場がない。だから若い人が島を出ていき、高齢化になるなど、人がいないと産業も育ちません。逆に、産業が育たなければ受け入れる場所などできないのです。人口流失の原因は、島に働く場所がなかったからであり、だから、働く場所を作るために「<sup>さんぎょうそうしゅつ</sup>産業創出」を打ち出すのであります。

私は、島の資源を活用して仕事を生み出し、持続的に発展させる仕組みを作り出すこと。<sup>いわゆる</sup>所謂「礼文島まるごと総合商社」を作ることが私たちの生きる道ではないかと思っています。

今年度は、全国のそうした町の取り組みを勉強しながら、具体的にわが町でどんな取組をして産業を作り、人口を増やす手立てがあるのかを検証し、実現していく初年度にしたいと考えておりますので、皆さんのお力を貸していただきたい。

今後、プロジェクトを立上げて取組みたいと思っていますので、職員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

また、もう一つは今年の仕事始めにお話をいたしましたように「せいぶつたようせいほぜん生物多様性保全の取組み」への理解と協力であります。自然に恵まれた礼文島の環境はさまざまな生物によって成り立っており、その環境が一度壊れると、礼文島らしさはまたたく間に消えてしまうのであります。だから、私は、昨年12月に環境省の支援を受けて「生物多様性地域戦略検討委員会」を立ち上げて、礼文島らしさを守っていく取組、いわゆる所謂「生物多様性保全」の取組を進めてきました。これまで4回の会議の中で、来年3月までに「アクションプラン」を策定することも決まりました。先程お話したグリーンツーリズムやアイランドツーリズムも礼文島の環境をい活かすこころ試みだと思っています。また、この4月からは、アツモリソウ群生地や高山植物園、観光案内所などでレブンアツモリソウのバッジを購入していただく「礼文島リボンプロジェクト」を実施することにしていきます。町民皆さんの主体的な取組とするため「生き物つながり」や「礼文島のためになるいいことをしよう！」というわか解りやす易い言葉を使って、将来にわたって持続じそく可能なかのう恩恵が受けられるようにすることが目標です。



「礼文島の海の生物多様性が増せば、漁業も自ずとその恵みを受けることになり、また、礼文島の貴重な高山植物等の多様性をきちんと保全することは、礼文島観光の魅力が高まることになる」と考えています。

このように、多くのテーマがある「生物多様性の保全」の取組の中から、私は、まず、「礼文島らしさをなくさないために礼文島の希少な高山植物とお花畑を守っていく」ということに着目した取組みから始めようと考えております。

礼文島の財産である自然や環境を、これからも元気な礼文づくりに活用していくために、町民みなさんのご理解はもちろんでありますが、職員みなさんのご理解ご協力をあらためてお願い申し上げる次第であります。

冒頭にも申し上げましたように、この外にも<sup>ほか</sup>まだまだ多くの課題があるわけですが、今日は、特に「人口が3,000人を割り込んだ今、人口の減少がさらに地域の活力を<sup>な</sup>失くさないようにわが町に産業を創り、人口を増やす取組みをしよう」ということ。

また「礼文島の恵まれた資源を将来とも持続可能なものにする取組をしよう」と云うふたつのお話をしました。

ともに将来の礼文島のためになることを考え、実行することとであります。

私たちは、これまでの9年間、厳しい行財政改革に取り組んできました。まだまだ町の財政は、安心できる状況ではありませんが、それでも職員みなさんの頑張りによって、危機的だった財政状況を安定化に向け改善することができました。

今、私たちの目の前にある「人口を増やす取組」と「生物多様性、生き物つながりの取組」は、もっともっと厳しいものになるかも知れません。

しかし、9年前約120億円あった借金を22年度末には76億円まで減額することができた大きな原動力もまた職員皆さんの力でありました。

私は、職員皆さんの頑張りによって次の目標も必ず成し遂げることができると信じております。礼文島の<sup>みんな</sup>皆が元気をとりもどすためによろしくお願いを致します。

以上、大変長くなりましたが、私は、今年も、みなさんの先頭に立って「元気な礼文町」を創<sup>つく</sup>ってまいります。

皆さんも、できることは一生懸命工夫をして頑張っていたきたい。でも、それでもダメなときは決して、ひとりで悩まず、助けがほしいと伝える勇気をもっていただきたいのであります。

そして、いつも云うところの「清く正しく美しく」をモットーに「スピード感」あふれる仕事をしていただきたいと思っております。

どうぞ、職員皆さんの頑張りと更なるご支援ご理解ご協力を、心からお願い申し上げ、新しい年度にあたっての訓示といたします。